

厚生労働行政推進調査事業費補助金
難治性疾患等政策研究事業（免疫アレルギー疾患等政策研究事業
（免疫アレルギー疾患政策研究分野））
分担研究報告書

超音波検査を用いた標準的関節リウマチ診療の普及と教育活動に関する研究

研究分担者 大野 滋 横浜市立大学付属市民総合医療センター リウマチ膠原病センター 准教授

研究要旨 関節超音波ガイドラインの作成、JCR 関節超音波講習会の開催、JCR 登録ソノグラファー制度の導入を通じて我が国でも関節超音波検査が普及しつつある。関節リウマチ診療の更なる標準化のために、わが国の実情に合わせた独自の関節エコー診療ガイドラインの整備が挙げられる。本研究で挙げられた問題点について今後のJCR 関節リウマチ超音波標準化小委員会の活動の課題として提言したい。

A. 研究目的

関節超音波検査の臨床応用により、我が国における関節リウマチ診療の標準化に寄与すること。標準的な関節超音波検査を全国のリウマチ専門医に普及させるため広く教育活動を行う。

B. 研究方法

- (1) 関節超音波検査の普及
- (2) 関節超音波検査の教育
- (3) 登録ソノグラファー制度に関する現状と問題点についてこれまでの活動をもとに検討した。
(倫理面への配慮)
該当せず。

C. 研究結果

- (1) 関節超音波検査の普及：JCR 関節エコー初級講習会を毎年開催しており、受講者はこれまでに全国で計 761 人にのぼっている。現状では定員に対して応募者が概ね上回っており、少なくとも今後数年は毎年 200 人ずつ増加していくことが予想される。
- (2) 関節超音波検査の教育：関節超音波検査の更なるスキルアップのために JCR 関節エコーアドバンスコースを開催してきた。本年度までの 4 年間で 160 人が受講した。

- (3) 登録ソノグラファー制度：平成 26 年に登録ソノグラファー制度を制定以来、昨年まで 2 年間で 349 人が登録した。

D. 考察

- (1) 関節超音波検査の普及：若手・将来のリウマチ専門医への普及のために、欧州の一部の国々にならいい、リウマチ専門医試験の受験資格への組み込みが考慮される。これまでの実技講習会の受講者は医師が多かったが、わが国の現状を考慮すると臨床検査技師への本検査の普及が今後望まれる。
- (2) 関節超音波検査の教育：これまでのエコー講習会に加え、より多くの学習のための機会が望ましい。JCR 主催の各種教育研修会で関節超音波検査をテーマとしたり、e-learning やイメージライブラリーといったコンテンツの作成も考慮される。今後必要不可欠である臨床検査技師の教育のためには超音波検査学会との協力や技師向けのコンテンツの整備も必要と思われる。
- (3) 登録ソノグラファー制度に関して、その周知のために超音波関連の他学会との協力が課題である。より魅力的な制度（登録することのメリット）とするためにインタラクティブ・ケースカンファレンスの開催、登録ソノグラファー向けの講習会（解剖・

疾患に関する講義)や登録ソノグラファーの資格の維持・更新の簡略化、新たに認定ソノグラファー制度の制定などが課題である。その他の課題として保険点数請求に関する問題の克服、各施設で共有できる関節エコー検査結果報告書の作成などが挙げられる。より長期の目標として、関節リウマチ診療の標準化のために、わが国の実情に合わせた独自の関節エコー診療ガイドラインの整備が挙げられる。

E. 結論

ガイドラインや講習会の開催を通じて我が国でも超音波検査が普及しつつある。関節リウマチ診療の更なる標準化のために、本研究で挙げられた問題点について、今後の JCR 関節リウマチ超音波標準化小委員会の活動の課題として提言したい。

F. 健康危険情報

該当せず。

G. 研究発表

1. 著書

大野滋, 鈴木毅, 小笠原倫大: リウマチ診療レベルアップ 関節エコービジュアルレシピ. 南江堂, 2016年

2. 学会発表

大野 滋: PMR の鑑別診断における関節エコーの有用性. 第 60 回日本リウマチ学会学術総会, 横浜, 2016.4.

H. 知的財産権の出願・登録

該当せず。